

## ヨーロッパ旅路

丹羽恒夫



(カットはビールの敷紙, 各国語による乾杯)

### 13. Holzmesse 木材展覧会

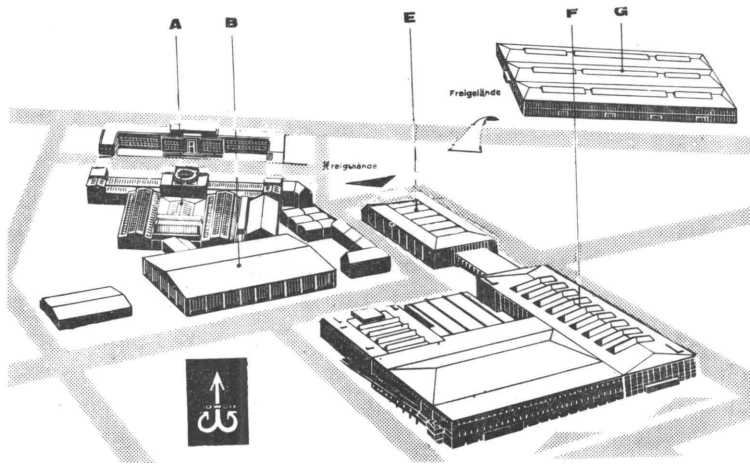
前に述べたようにデュッセルドルフではホルツメッセがあった。これは10月20日より29日までの10日間開催され、木材加工関係研究者も集って討論会等も開かれ、また一般の人も多く参加して賑やかなものである。

主催並びに参画メンバーは連邦農林食糧省ドイツ林業経済局、木材経済局、森林保護協会、木材関係官庁、建築関係官庁、協会、研究所等で、大がかりなものである。

会場はデュッセルドルフのライン河畔の公園にある美術館、音楽堂に続いた常設の展覧会、見本市用の建物の大部分を使用して開催された。これ等の建物は東京の国際見本市の建物のよ

うな大きなホールがAよりGまで7棟あり、このうちA、B、E、F、Gの5棟を使用して居り、その配置は図のようになっている。

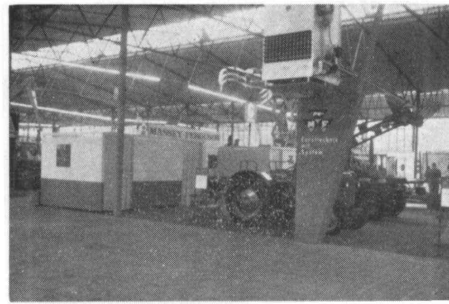
Aホールは森林部門で、森林資源、森林の効用、国立公園、森林保護、木材需要構造、造林機械、手入機



ホルツメッセ木材展覧会場



ホルツメッセ会場Eホール



ホルツメッセ会場Gホール



ホルツメッセ会場Eホール



ホルツメッセ会場Gホール



ホルツメッセ会場Eホール

内装飾をモデルルームを使用して説明。

Gホールは一番大きなホールで前庭を含めて、造材、運搬用器具機械、フォークリフト、クレン車など特殊トラック、チップパー、ブラッシュチップパー、剥皮機などを並べて実演していた。

加工機械については4月末に有名なハノパーメッセで大ものが出つくしているの、あまり見るべきものはなかったが、なかには興味をひいたものもあり、参考までに2、3あげて見よう。

械等、森林の管理経営に関する問題が国民にわかるように展示してある。

Bホールには輸入木材、モザイクフローリングなど外国より輸入の木材及び木材加工品並びに加工機械が陳列されている。

Eホールは木材の使用法を説明した棟で木材関係ドイツ規格(DIN)の説明、新木材材料の展示使用法の説明、木材の建築に対する使用法、防腐木材、難燃木材についての説明、木造家屋のモデル、木材の新しい研究(例えば電子顕微鏡、アイソトープの利用)等を説明。

Fホールの大部分は協会、メーカーよりの出品で木材製品、木材加工機械、梱包材料、木材保護特に防腐についての陳列説明、2階には各種室内家具及び室

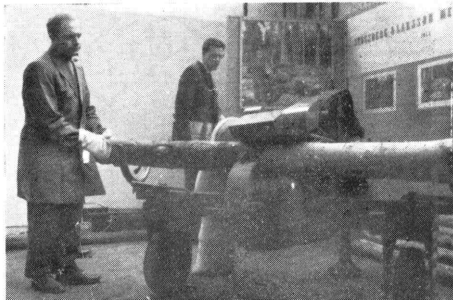
#### (1) Larssonの剥皮機

会場には有名な Soderhamn の Cambio debar - ker の可搬型、即ちトラックと組み合わせたのが出品されていたが、この機械についてはすでに紹介されているので省略して、山元における造材で使用し得る小型の剥皮機が出品されていたのでこれについて紹介してみる。この機械は Bark - Lasse といひ、スエーデンの Larsson という機械製作所で製作しているディーゼルエンジンで駆動され、車の後につけて引張ってゆける簡単なもので、重量は510kg、エンジンは20HP でありそうである。剥皮機構はカタヘッド型でヘッドは油圧で押しつけられる。送りは斜につけられた2ケのギヤで回転しながら送られる。能力は直径13~15cmの原木で8時間半で35m<sup>3</sup>処理出来る。

径級は 5 ~ 40cm の範囲内なら使用出来るそうである。カッターは円筒に刃がヘリコイドにつけられている。簡便であり、山元チップ化の際、剥皮に好適であろう。写真はこの時に実演してもらい写したものである。



剥皮機(可搬型)実演  
ホルツメッセ会場Bホール



ホルツメッセ会場Bホール剥皮機実演



ホルツメッセ会場Bホール剥皮機実演

## (2) 振動篩

西ドイツの Allgaier 社で製作している円盤状の篩で回転しながら上下振動するので粉体がラセン状の金網をおどりながら廻りフルワれるので、篩の通過面積の割合に機械の占有面積が小さい。換言すれば占有面

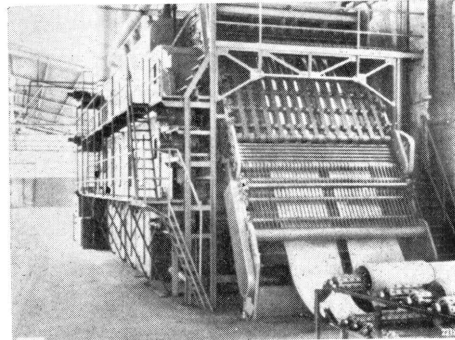
積の割合に能率が良い。  
標準のものとしてデータは次の如くである。

型 式	振動筒型 mm	高 さ mm (椀を除く)	占有面積 mm	篩面積 m <sup>2</sup>
SM 1650	1650	985	1660×1660	2030
SM 2000	2000	1000	2100×2100	4010

## (3) Tromag 社の単板乾燥機

Tromag 社の単板乾燥機はクロスサーキュレ - ション式で、風も単板面に垂直にあたるよう傾斜ダクトでスリットから風を吹きつけて居り、この点では1、2の日本のメーカーも行っているが、注目したのは切削後リーリングした単板を切らずに連続したまま乾燥する方法で、たしかに歩止りはよくなると思う。樹種は問わないというが、道材、特にセン等は問題であろう。ラワンには好結果をおさめるかも知れない。すでに日本に1台輸出したそうである。その結果を待ちたい。

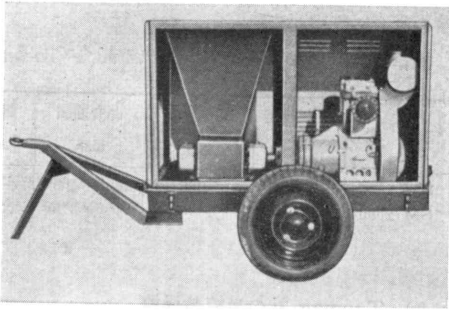
勿論送りは網式のドライヤーで送り、速度は可変であるが、1 mm厚で 3.5 m<sup>3</sup>/hr の能力だそうである。送られる距離は一定であるので1段の場合は長くなる。普通は折り返して3段とし、有効長さは1段 8m、6セクションである。温度は 120 である。



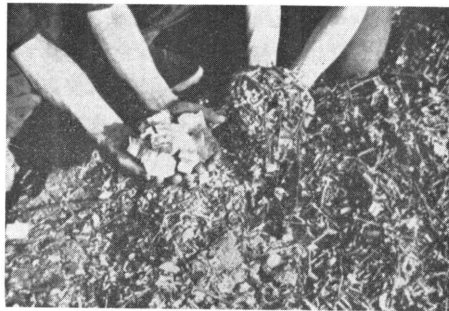
トロマーク社連続単板乾燥ドライヤー

## (4) Brcecopのチップパー

このチップパーは山地における枝条材をチップ化し利用または土地に還元する。いわゆるブラッシュチップパーで、トラックあるいはトラクターに索引出来る小型のものでコンパクトに出来て居り、造材跡の枝条整理にはもってこいのものである。これには種々の型があり、日本に輸入した場合 27 万円位から 265 万円位のものまである。



プレコーブチッパー



同機によるチップ

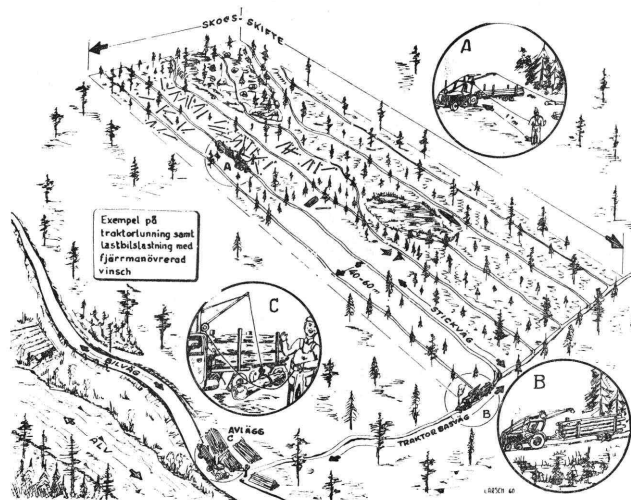
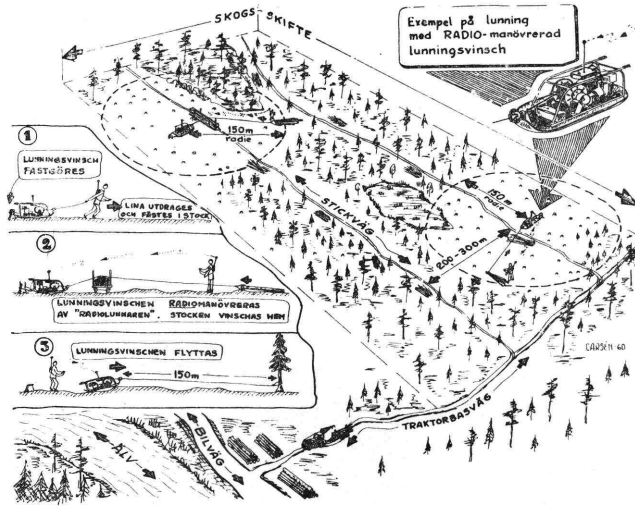
(5) Sepson の運搬器具

スウェーデンの S.E. Peterson 社の材運搬用ウインチが出品されていたが、その中にリモートコントロールのものがあった。これはコードを用いたものと無線を使用したものとあり、このウインチをトラックにつけたり起重機として組み合わせると間に障害物があっても従来の手信号を用いず、運転手はウインチの傍にいらなくても材の見える位置にいて、或いは材と一緒に行動しながら操作出来る。これはよく模型飛行機等に应用しているような方法であろう。参考までにその時にもらった運搬の模式図をかかげる。

その他 Maier 社、Condux 社のチッパー、Vollmer 社の鋸目立機など面白いものがあつたがすでに紹介されているので省略するが、この会場は素晴らしく大きく、また一般の人もずいぶん来て居りやはり、建築、室内装飾品に興味が多い(特に御婦人方は)のは日本と同様であろう。

普通合板から特殊合板、成型合板までいろいろなものが、合板協会の形でグループとなって出品され、なかなか面白いものがあつた。これ等については別の機会にゆずろう。

- 林指合板研究室 -



セブソンウインチ利用の図